

令和元年度

学校評価

自己評価書・学校関係者評価書



A: 申し分ない取り組みが行われ、十分な成果を上げている。

B: 必要な取り組みが行われ、改善に向けた成果を上げている、もしくは上げつつある。

C: 改善に向けた取り組みが見られるが、成果が不十分である。

D: 直ちに改善を図らなければならない様子が見られるが、改善に向けた取り組みに着手できていない。

大川村立大川小・中学校

令和元年度 大川村立大川小・中学校 自己評価書(項目別評価表)

No.1

項目1 (知)教育課程・学習指導(かしこく)		評 定	自己評価		関係者評価	
学校教育目標	大川村に夢と希望と感動を!		前年度	A	A	A
中長期経営目標	少人数学習を生かしたきめ細やかな小中一貫教育の充実	本年度	B	B	B	
短期経営目標	確かな学力の定着と向上	達成状況 <具体的取組の自己評価>				
評価項目(目標達成に向けた具体的な取組)		達成基準		達成状況 <具体的取組の自己評価>		
1	【授業づくり】 ○主体的・対話的な授業づくりのための授業スタンダードを、日々意識して取り組む。 ○1人1回以上の公開授業研修を行う。 ○授業参観の視点を明確にして、日々の授業に生かせる事後協議を行う。 ○全校研の授業では事前に指導案検討会を行い、共通認識のもと、授業を実施、参観する。	○全学調、県学調で平均正答率+5.0以上 ○大川小中授業スタンダードを全教員に示し、生徒同士で主体的・対話的に学び合えるようにする。 ○学校評価アンケートで、生徒が学習に関する取組に対して肯定的な評価を90%以上とする。	○全国学調平均正答率全国差【小】-14.2【中】+13.5、CRT平均正答率全国差【小】+2.7【中】+4.1、県学調平均正答率全国差【小】+12.4【中】+11.6。 ○全クラスの日々の授業で大川小中授業スタンダードを活用し、進んでコミュニケーションを図ろうとする児童生徒の育成を図り、1人1回以上の公開授業研修を行った。 ○学校評価アンケート「先生は、わかりやすく勉強を教えてくださいませんか」肯定的評価97%「授業中はよく考え、自分の意見を発表できていますか」肯定的評価が93%。	自己評価	A	
				関係者評価	A	
2	【コミュニケーション】 ○児童生徒用コミュニケーションアンケートの作成を通して、児童生徒につけたい力を明確にする。 ○コミュニケーション力をつけるために様々な場面で、指導の工夫を交流し合い、効果的指導内容、方法を共有化する。	○学校独自の児童生徒アンケートにおいて、コミュニケーション力が伸びたなどの肯定的評価が70%以上とする。	○各学級・教科の学習の場だけでなく、発表集会(6回)のびのびタイム(6回)を実施し、コミュニケーション力の向上を図った。 ○児童生徒用コミュニケーションアンケート、「自分の思いや考えが相手にうまく伝わっていないと感じたり、伝えることが苦手と感じることがある。」54%(6月)34%(11月) ○「自分の思いや考えをわかりやすく伝える」77%(6月)78%(11月)、「コミュニケーションポイントや相手を意識することを通して、コミュニケーションがうまく取れている。」77%(6月)92%(11月)と向上した。 ○行事等の発表において、多様な方に自ら話しかけるなどの積極性において二極化しており、自己肯定を高め積極性を向上させることが課題である。	自己評価	B	
				関係者評価	B	
3	【ICT】 ○授業における効果的なICT活用事例を集積し、授業改善に活用する。 ○iPadを活用した効果的な家庭学習を研究する。 ○ICT活用研修を継続して行い、教員の活用技能の向上を図る。	○ICTを活用した授業改善を全教員で取り組む。 ○ICT活用アンケート等で、取り組みに対して肯定的な評価を80%以上とする。	○ICT活用校内研修(5回)、ICT活用実践交流(2回)、講師招聘校内研修(2回)、村教委指定ICT活用公開校内研修会を実施した。 ○ICT活用アンケート(児童生徒-授業)にて、②進んで81%、④調べたい89%、⑤深める85%、⑥伝えられる96%、⑧説明できる85%、⑨自分のペースで85%、⑩めあてを持ち81%、⑪協力して85%、⑫教えあい81%の項目で達成。①楽しく74%、③集中して70%、⑦覚える70%のそれぞれの項目未達成。全項目平均で肯定群81.8%。同(持ち帰り学習)にて、①できた70%、②楽しい63%、③わかりやすい59%、④進んで67%、⑤集中できたか44%、全項目平均60.6%で未達成。 ○家庭学習におけるiPadの効果的な活用を研究し、児童生徒が意欲を持ち取り組めるようにすることが課題と考える。	自己評価	B	
				関係者評価	B	
改善 方 策	○全国・県学調において、記述問題で正確な語句の使用や論理的な説明力に課題があり、授業において言語活動の充実を図り改善する。 ○コミュニケーション力について子どもの意識が向上してきているが、積極性において二極化している面も見られる。そこで授業の中に発表する場や、日常の発表集会、他校との交流など、あらゆる場面で発表の場を設定し肯定的な評価を与え、自己肯定感を高め、積極性の二極化を解消しコミュニケーション力をさらに伸ばす。 ○家庭学習のあり方とiPadの効果的な活用方を検討し改善する。		関係者 評 価 講 評	・県や村の指定を受けて、いずれの項目も去年よりも取り組みは良くなっている。 ・コミュニティスクールで地域と関わる中で、授業づくり・コミュニケーション・ICTがどうだったのかという評価ができるような評価項目を来年度は加えるといふ。		

項目 1		(徳)心の教育(やさしく)		評 定	自己評価	関係者評価
学校教育目標	大川村に夢と希望と感動を!					
中長期経営目標	豊かな心の育成			前年度	B	B
短期経営目標	思いやる心を言葉や行動で表し、自尊感情の高い子どもや共に伸びる仲間集団の育成			本年度	B	B
評価項目(目標達成に向けた具体的な取組)		達成基準		達成状況 <具体的取組の自己評価>		
1	【道徳教育】 ○道徳の授業の充実 ・全教員による道徳の授業の実施 ・道徳公開授業の実施 ○全教職員による児童生徒の見取り	○道徳アンケートで肯定的評価90%以上		○道徳意識調査結果【小】(1回目)1~4年全ての設問90%以上、56年設問3、4、5、7が90%未満(2回目)全学年が設問3のみ43%で、それ以外の項目は全て85%以上の肯定的評価であった。【中】(1回目)90%の項目1年2、3、4、5、8、9、10、2年3、4、5、6、9、10、3年1、2、3、4、5、6、7(2回目)90%以下の項目1年2、7、2年1、2、4、5、6、7、8、9、10【3年】4、6、10と改善した。 ○学校評価アンケートにおいて児童生徒の「学校生活は楽しいですか」肯定的な評価が91%であった。	自己評価 B	関係者評価
					B	
2	【生徒指導の充実・いじめ防止】 ○心の教育推進 ・学期に1回のいじめアンケートの実施 ・hyperQU年2回実施 ・相談体制の充実 ・特別な支援を要する生徒を含む生徒理解のための定期的な支援会の実施 ・SCの定期的な面談 SSWの効果的な関わり	○いじめ解消率100%にする 2回目のhyperQUでは、要支援群0にする。		○人間関係の若干のトラブルが発生。いじめを認知する事例が発生したが、解消。 ○Q-U要支援群は【小】は2回とも0、【中】は1回目2人であったが2回目は0となった。	自己評価 B	関係者評価
					B	
3	【図書・読書活動】 ○朝読書・読み聞かせの実施 ・図書支援員と協力して計画的に行う。 ・小中学生が保育園児の読み聞かせを行う。 ○委員会活動の充実 ・学期に一回程度、読書クイズなどの活動を行う。	○読書量を調べ、学期ごとに比較、向上をはかる ○図書室の貸出し冊数の増加を図る。図書貸出目標数(低学年100冊/人、中学年100冊/人、高学年50冊/人、中学校延べ200冊)		○貸出冊数(1月末)は【小】低学年77冊/人、中学年65冊/人、高学年37冊/人【中】延べ210冊で、小学校低学年は未達成。中高学年は昨年度より増加し、中学校は達成した。 ○朝読書は毎日、読み聞かせは地域の方の協力も得ながら10回実施した。 ○図書委員会において、季節感のある壁面飾りの工夫や読書クイズの掲示など、図書室の環境づくりを行った。併せて、子ども高知新聞への投稿も実施した。 ○個人差は依然あり、ジャンルに偏りが見られる。幅広い読書へいざなう必要がある。	自己評価 B	関係者評価
					B	
改善 方 策	○道徳の教材や授業について更なる改善を図っていく。 ○OSCや指導主事の支援訪問などを活用し、児童生徒の支援体制の充実を図る。 ○幅広い読書へいざなうため、図書委員会において例えば「本の帯コンテスト」「発表集会でのビブリオバトル」といった児童生徒が参加する活動の実施など多様な活躍に期待する。			関係者 評 価 講 評	・道徳教材など教材研究に努力してもらいたい。特に、特活ともからめて地域のことを教材化するなど、地域教材の活用(民話など)をして、協議や深まりをもっと広げてほしい。なお、大川村から嶺北地区まで広げていくと教材化できるものはたくさんある。新聞記事の活用も期待する。「500人の村がゆく」など ・読んだ冊数だけでなく、様々なジャンルを読む取り組みをして、幅広い読書を目指して欲しい。	

令和元年度 大川村立大川小・中学校 自己評価書(項目別評価表)

No.3

項目 1		(体)健康・体力(たくましく)	評 定	自己評価	関係者評価
学校教育目標	大川村に夢と希望と感動を！				
中長期経営目標	健やかな体の育成		前年度	B	B
短期経営目標	運動習慣を身につけ、体力と技能の向上		本年度	B	B
評価項目(目標達成に向けた具体的な取組)		達成基準	達成状況 <具体的取組の自己評価>		
1	【健康教育】 ○保小中の生活調べを年間2回、長期休業中に実施する。 ○生活調べの結果を通信で配布する。 ○生活リズムの学習を実施する前後に行う。 ○保護者への啓発便り・評価表	○学校評価アンケートの「生活リズムに気を付け、規則正しい生活をしていますか」について、児童・保護者の肯定的評価80%以上。	○学校評価アンケートの「生活リズムに気を付け、規則正しい生活をしていますか」に対して、肯定的評価は、保護者は81%、児童生徒83%。 ○生活調べを8月12月の2回実施した。iPadを活用し長期休業中に提出を行えるように取組み、分析結果を各家庭に配布啓発を図った。 ○保健便り(1月末10号)を配布し、定期的に生活リズムの大切さを保護者に伝えた。また学期末懇談の際、担任を通し、生活面で気を付けることを保護者への連絡を行った。	自己評価 B	関係者評価 B
	2	【運動能力】 ○体力づくりの充実 ・年間を通して、計画的な体力づくりを進める ○体育行事の実施 ・水泳大会・マラソン大会・運動会など体育行事に向けた取り組みで体力向上を図る。	○男女とも長座体前屈・50m走、ボール投げが県平均以上	○全国体力・運動能力・運動週間等調査(速報値)は、 【小】(男子)握力(筋力)、上体起こし(筋力)、長座体前屈(柔軟性)、立ち幅跳び(瞬発力)、ボール投げ(巧緻性)は全国値を上回る。反復横とび(敏捷性)、20mシャトルラン(全身持久力)は全国値を下回ったがほぼ同等。(女子)長座体前屈(柔軟性)以外は、全国値を上回る。特に反復横とび(敏捷性)、20mシャトルラン(全身持久力)、50m走(スピード)は全国を大きく上回っている。 合計点では男女共に全国値を上回っている。(男子+4.06P、女子6.91P)、握力(筋力)が共に全国値を上回っている。(男子+3.3P女子1.91P) 【中】(男子)全種目において全国値を上回っている。(50m走、ハンドボール投げはほぼ同等)特に20mシャトルラン(全身持久力)、立ち幅跳び(瞬発力)が大きく上回っている。(女子)8種目のうち、4種目が全国値を上回った。(握力は同等)特に長座体前屈(柔軟性)、立ち幅跳び(瞬発力)が大きく上回った。しかし、他の4種目、反復横跳び(敏捷性)、20mシャトルラン(全身持久力)、ボール投げ(巧緻性・瞬発力)、50m走(スピード)がわずかに下回った。 総合点では全国値を上回り(男+7.31P、女+2.28P)、立ち幅跳び(瞬発力)が大きく上回っている。 ○男子は力強く、体も柔らかく、動きを持続する能力(粘り強さ)がありタイミングの良さもある。巧緻性やスピード力をつけるとさらによい。 ○女子は体が柔らかいが、敏捷性や全身持久力、素早さに欠ける。	自己評価 A
改善 方策	○生活リズムについては学習会を行うとともに、保護者への啓発や保護者と連携した取り組みを行っていく。 ○体育の授業や外遊びなど学校ぐるみで様々な運動に親しむ習慣をつけ、継続して体力の向上に努める。	関係者 評価 講評	・朝ごはんは食べているという結果だが、中身までは調べていないので、食事内容と排便のつながりといったことも指導していく必要があると思われる。 ・体力づくりについては、小学生は休み時間によく外で遊んでいる姿が見られる。スポーツテストやその他の場面でも子ども自身が去年の自分・過去の自分と比べて成長を実感出来るように、意識付けをしていく取り組みを検討してはどうだろう。		

項目1		保護者・地域・関係機関との連携・協働 防災・安全教育		評 定	自己評価	関係者評価
学校教育目標	大川村に夢と希望と感動を！					
中長期経営目標	コミュニティ・スクールを基盤とした学校運営 防災・安全教育の推進			本年度	B	A
短期経営目標	学校評価や学校経営計画の取組を活用し、組織的・効果的な学校運営の推進 危機を察知し、回避しようとする意識、能力を身に付け、行動できる児童の育成			達成状況 <具体的取組の自己評価>		
評価項目(目標達成に向けた具体的な取組)		達成基準		達成状況 <具体的取組の自己評価>		
1	【地域との連携・協働】 ○学校運営協議会の開催と充実 ○PTA活動の充実 ○学校だよりCSだよりの発行とホームページの充実	○年間6回の学校運営協議会の開催 ○学校行事への参加と教育環境の整備 ○学校だより年間13回発行とCSだより月1回の発行、学校行事ごとのホームページの掲載 ○学校評価アンケート(肯定的評価):「地域人材や環境を活用した教育活動を行っている」100%	○学校運営協議会8回開催。ワールドカフェ形式の熟議や懇親会なども実施した。 ○学校便りは14号、CS便りは8号発行した。ホームページは、公式が177記事、会員制が185記事(修学旅行等報告、お便り含)掲載できた。 ○学校評価アンケートにおいて、「地域の人材や環境を活用した教育活動を行っている」の肯定的評価が保護者100%だったが、、地域は84%だった。	自己評価	B	
				関係者評価	B	
2	【部活動】 ○生徒の生きる力の育成を目指し、地域・保護者と連携した全校部活(バドミントン)を実践する。 ○地域人材を外部コーチとして活用する。	○学校運動部活動方針に沿った適切な休養日・活動時間を設定し、各大会において入賞を目指す。	○中学校総合体育大会(県、香長土地区、土長南国支部)、高知県中学校バドミントン選手権大会(春季、学年別、秋季、冬季)高知県中学校新人バドミントン大会、嶺北オープン、ラクーン杯に出場した。 ○【土長南国支部】(男女団体)準優勝(男子単)2位4位(女子単)2位6位7位8位(男子複)3位(女子複)優勝2位4位、【香長土地区】(男子団体)準優勝(女子団体)3位(男子単)優勝2位5位7位(女子単)3位9位11位【学年別】3年男子2位入賞	自己評価	A	
				関係者評価	A	
3	【保小中連携】 ○幼児と児童生徒の交流を実施する。(年3回実施) ○保小中の教職員同士の交流・連携をする。	○学校生活アンケートの「学校は楽しい」の肯定的評価80パーセント以上。	○保小中連絡会の定期的な開催。(4月26日、6月6日、9月3日、10月4日、1月17日、3月5日)子どもの情報共有や連携して行う行事の確認、生活調べの実施についてなど協議。 ○選書会を保育、小中で同日に開催。(7月11日) ○保育参観を6月～週1回のペースで実施。幼児の実態把握や情報共有をして、スタートカリキュラムの更新に活かすようにした。 ○保育園児と小中学生の交流(中1ふれあい体操、中3家庭科保育実習、小3・4読み聞かせ、中1読み聞かせ) ○学校生活アンケートで「学校が楽しい」の項目で肯定的評価は96%だった。	自己評価	A	
				関係者評価	A	
3	【防災・安全教育】 ○避難訓練を計画的に実施する。 ○村防災訓練への参加 ・大川村の防災訓練に全校で参加し、防災に関する知識を学ぶ。	○学校評価アンケートで、安全管理・安全教育に力を入れて取り組んでいる対して肯定的な評価を90%以上にする。	○年間計画作成。4月25日交通安全教室(全校)。6月3日救急法講習(中学生、教職員)。6月25日村防災訓練に参加し、地震避難訓練および火災避難訓練を実施。7月16日防犯教室(不審者対応訓練も併せて実施)。7月17日起震車体験(小学生)。9月2日地震避難訓練(シェイクアウト訓練)。2月18日地震避難訓練実施。 ○学校評価アンケート「児童生徒の安全管理、安全教育への取組」肯定的な評価96%	自己評価	B	
				関係者評価	B	
改善 方 策	○学校運営協議会の計画的かつ有機的な実施につとめる。 ○学校だよりやCSだより、ホームページなどを活用して、学校の教育活動を地域へ効果的に発信する。 ○子供の声が村内に響くよう村内放送で学習活動の成果を発表する機会を増やす。 ○様々な場面を想定した避難訓練を継続して実施し、いざという時に判断できる子どもたちを育てていく。 ○安全教育では、子ども達の将来に関わる色々な学習ができるようにしていきたい。		関係者 評 価 講 評	・避難訓練について、授業中の実施だけでなく、休み時間等、子どもが自分で判断しなくてはいけない場面での避難訓練を入れて継続して実施してほしい。また、保育園と一緒に避難訓練なども計画に入れていくのはどうか。 ・地域との連携・協働において、地域の肯定的評価が84%だったのは、地域放送が昨年より少なかったのが原因ではないか。もっと地域放送を活用し、子どもの声を通して学校の活動を発信していくと良い。 ・コミュニティスクールを基盤とした学校経営を目指しているのであれば、評価項目1については別項目として評価をするようにしてほしい。		